



(昭和五十三年十月七日 鳥居・旗竿移設工事の様子)

本年の大進展として新庄町用水組合の多大なるご寄付をもつて神社境内地に内在を固めるのに大きな成果がありました。私は幼い頃から神社にまつわる借地や共有地の話などを現宮司より伝えられて育ちましたので、幼心にいつか境内地を後世に渡す時までに諸問題を整理してより良い環境にすることが己の使命だと感じていました。今から思えば子どものがくせにませたことを考えていましたが、そういつたいくつかの課題もひとつずつ、少しずつ絡まつた糸がしだいにほどけていくような流れがあります。

また、もうひとつ長年の課題であります神社横の道路「市道一〇号線」の拡幅工事要望書が新庄町第一町内会より提出され、校下自治振興会、地元市議会議員と足並みを揃えて推進する組織作りの準備にこぎ着けたことです。市道一〇号線は狭いため、昭和五十三年十月に広げたものの根本的な解消には至らず、通勤時間の交通量増加、積雪時の道幅減少、児童通学路と大変危険な状態にあります。現在は神社境内を通学路に指定していたとき、とりあえず児童の安全確保が為された事に対しては安堵しております。決して地元町内会、宮総代会がこれまで放置していたわけではなく、幾度となく議論されておりましたが内在する諸問題があり、好機を窺つておりましたところ、ようやく事が進展したのが本年であったということでありまして内情をお察しいただきたいと思います。

本年大きな進展として新庄町用水組合の多大なるご寄付をもつて神社境内地に内在を固めるのに大きな成果がありました。私は幼い頃から神社にまつわる借地や共有地の話などを現宮司より伝えられて育ちましたので、幼心にいつか境内地を後世に渡す時までに諸問題を整理してより良い環境にすることが己の使命だと感じていました。今から思えば子どものがくせにませたことを考えていましたが、そういつたいくつかの課題もひとつずつ、少しずつ絡まつた糸がしだいにほどけていくような流れがあります。

来る新庄鎮座四百年である平成二十八年まであと三年となりました。

本年の大進展として新庄町用水組合の多大なるご寄付をもつて神社境内地に内在を固めるのに大きな成果がありました。私は幼い頃から神社にまつわる借地や共有地の話などを現宮司より伝えられて育ちましたので、幼心にいつか境内地を後世に渡す時までに諸問題を整理してより良い環境にすることが己の使命だと感じていました。今から思えば子どものがくせにませたことを考えていましたが、そういつたいくつかの課題もひとつずつ、少しずつ絡まつた糸がしだいにほどけていくような流れがあります。

新川神社 稲宜 舟木信孝

新川神社
社 報

鷹乃羽

平成二十五年十二月十日発行
発行所 新川神社社務所

編集者 稲宜 舟木信孝

明治天皇北陸御巡幸時町新庄小休止処手水鉢
設置場所 舟木神職家玄関右横

古事記に親しむ 中巻下巻完全読破編（昼の部・夜の部）

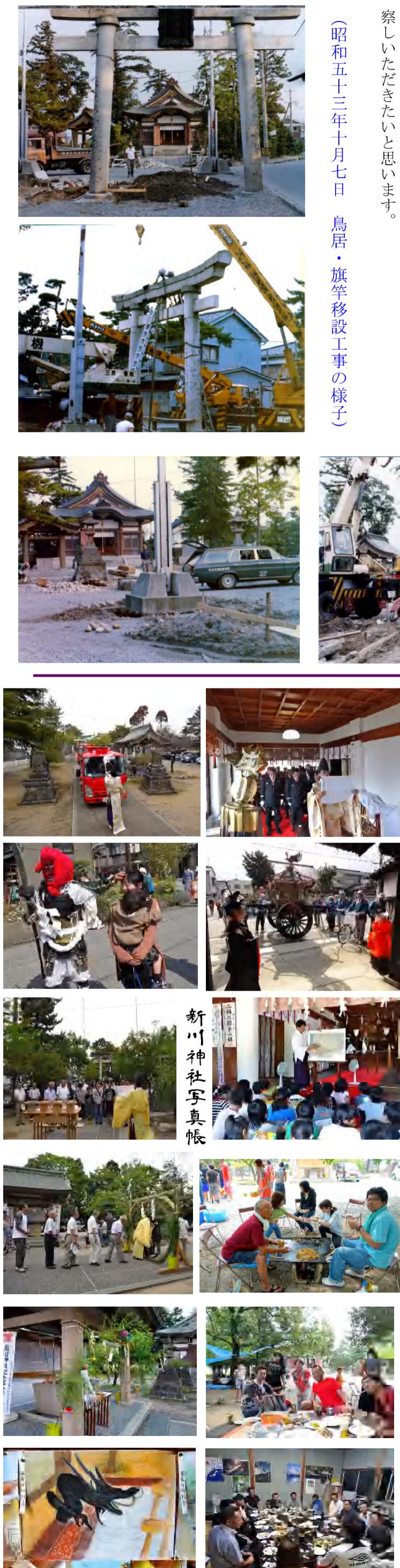
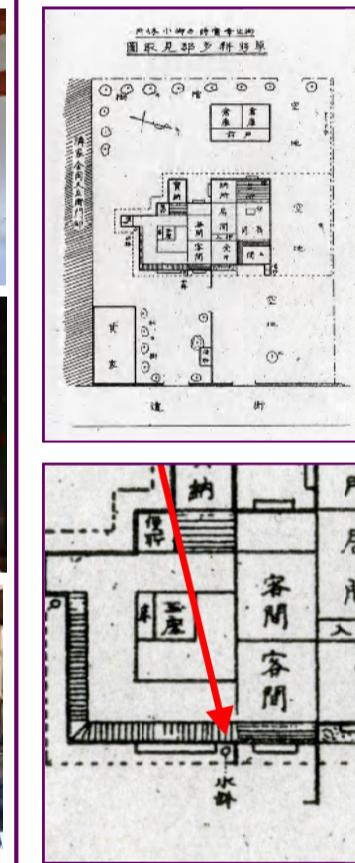


皆さん、明治天皇様がこの新庄村に来られて、草野邸（現在の金岡邸のお庭辺り）で御休憩されたことをご存じですか？その時に明治天皇様がお使いになられた手水鉢が、本年、正木家から奉納されました。

明治元年の王政復古により、新しい時代の到来を国民に知らせるため、また将来の立憲君主としてのご修学を目的として、北陸地方へは明治十一年に御巡幸された。九月三十日魚津を御出発、午前十一時頃、水橋駅をご出発、町袋野立所にて「常願寺川の急流を前に控え隆然と天そそる立山連峰を眺められながら安政五年の大地震による被害について大書記官から奏上を受けられた。次の町新庄小休所（草野耕太宅）には、午後零時五十分到着、拝観人や小学生生徒が整然と奉迎した。「毎戸国旗を掲げ日の丸の提灯を下げ中には店頭を清め金銀の屏風を立て廻し三方に御酒を供えて奉祝し、一般に各戸主は礼装して門口に出て御通轍の際、最敬礼を成したり」（富山県史蹟）と伝わる。（解説文より引用。舟木家、もしくはHP参照）

この度一年間に渡り上巻を読破された皆さん
のご要望により、引き続き中巻下巻を素読し古事記完全読破を目指すコースが開講しました。中巻は神武天皇から始まります、歴代天皇の御事績を通じて日本とはどのような国柄なのかを皆さんと一所に感じる講座として、お堅い勉強会というよりも素読を通じて古事記を体験しましょう、というスタンスで気楽にやっております。途中からの参加でも歓迎いたします。
(参考要項・日程等はホームページ参照)

新川神社ホームページ <http://niikawajinjy.a.com>



「古事記に親しむ」「鷹乃羽雅楽会」「神道行法鍊成会」

伝統文化継承道場三本柱

数年前より新川神社として地域を良くするためにどのような形で社会貢献、奉仕できるかとを考えつづけて参りました。平成二十三年東日本大震災以降は特に思うところがあり、意を決してその事をひとつずつ実行に移しました。それが「伝統文化継承道場三本柱」です。

只今奉賛会の中核を成す事業として「參集殿」の建築をお願いいたしております。今まで通りの機能として、総代会の会合・祭典後の直会会場・参拝者の便所などの使用用途は元より、今後は今まで手探りで肅々と実施して来ました。「古事記・雅楽・神道行法」をより広く一般の方々にお伝えし、体験できる「神道道場的な神社」の拠点として、または地域の方々が利用できる公共の場として駐車場、周辺道路環境を含めた地域に開かれた神社の境内として再構築したいと考えています。

今まで富山県内には一般向けの神道講座や雅楽講座など体験したり伝授する場が有りそうで無かつたように思います。ここ最近は日本の伝統文化を見直す風潮があり、神社や神道にも関心が高まっている様で、特に若い世代の方々の関心が高いことは喜ばしいことあります。しかしながらその受け入れ側である神社が「如何なる方法で皆さんと神様を繋げる事が出来るのか」が課題だと感じていました。今後、新川神社が如何に地域社会と関わりを持ち、社会貢献・奉仕が出来るかと言うことを模索しながら其の拠点として「參集殿」の必要性を氏子の皆様にご理解いただき、引き続き御奉賛を賜りますようにお願い申し上げます。



「お宮で飲もう会」について

禰宜 舟木信孝



現在の新川神社総代会には青年団が無く、総代さんが年代（六〇代）と次世代（二〇～五〇代）の繋がりが皆無の状態です。以前からもし、この人材多き新庄町の若い人が力を結集したら「すごいこと」が起きて「地域を明るく活気のある場所にできるのではないか」と考えるようになりました。そしてそれには古来から地域を護る神社を中心として「まつり」という神と人とが繋がる「ハレ」の日がふさわしいとも感じてきました。来る平成二十八年、新庄鎮座四百年を迎えるに際し、実行力のある若い世代が中心となつて企画立案・実行運営していくべき、老若男女が盛り上がるような祭礼を催す事、これが一番新川神社の神様が喜んでいただけることではないかなあと思います。

そこで新庄町に縁のある若手の意見を新庄御鎮座四百年記念事業に取り組むための妙案が無かけたところ、「とりあえず定期的に繋がりを広げるために飲みましょう」、ということで「お宮で飲もう会」が発足しました。以降、本年三月より二ヶ月に一度のペースで計5回開催いたしました。新庄町在住の氏子は勿論ですが、新庄校下、御縁のある方など「新庄に縁のある人」をキーワードに幅広く集つていただいています。会の趣旨として、「新川神社の鎮座する新庄町在住の若衆と神主が一緒にお宮で一杯飲みながら、色々な話ををして和みませんか。」というスタンスで親交を広げ、参加者は三十名を超えました。（勿論、お酒が飲めない人も参加できます。ソフトドリンクも用意しております。）回を重ねるうちに会の代表である小川氏他参加者の意向もあり、先ずは手始めに明年二月一日に「寒中みそぎ・鎮魂作法鍊成会」を実施することになりました。我が国の伝統である神道の中核を成す「きよめはらい」と「鎮魂」の作法を経験することにより心身共に清々しくなる体験の場を提供したいと思います。尚、富山県内の神社境内で一般を対象として神道行法を実施するのは初めての試みとなります。精進潔斎のあとは、銭湯にて暖まり、直会（なおりい）としてみんなで鍋をつつつきながら御神酒を酌み交わしたいと思います。我も、と思われる方は年齢・性別は問いません。奮ってご参加をお待ちいたしております。



鷹乃羽雅楽会 御神前奉納演奏 平成二十五年十月十九日 秋祭り 午後七時

去る平成二十四年九月、雅楽の演奏を通じて神様と人とが交流できればと思いい、新川神社において鷹乃羽雅楽会を結成致しました。県内各地より参加者四十八名が集い、富山県神社庁雅楽部の神職達と共に膝を突き合わせながら月二回稽古を重ねて参りました。皆さん熱心に取り組んでいただきまして三曲演奏するこが出来るようになりました。皆さん熱心に取り組んでいただきましたので新川神社秋の例大祭御縁日の宵に一年間の成果を神様に聞いていたただく奉納演奏を開催いたしました。秋祭りの宵に日本古来の雅やかな調べで御参拝の方々をお迎えいたします意味でも雅やかな一夜になりました。富山県神社庁雅楽部の藤井秀嗣部長を始めとする雅楽部の方々の熱心な指導と、それを真摯に受け止めていただいた受講生の皆様がいらっしゃるからこそ実現出来たことになります。あらためて感謝申し上げたいと思います。

かげたところ、「とりあえず定期的に繋がりを広げるために飲みましょう」、ということで「お宮で飲もう会」が発足しました。以降、本年三月より二ヶ月に一度のペースで計5回開催いたしました。新庄町在住の氏子は勿論ですが、新庄校下、御縁のある方など「新庄に縁のある人」をキーワードに幅広く集つていただいています。会の趣旨として、「新川神社の鎮座する新庄町在住の若衆と神主が一緒にお宮で一杯飲みながら、色々な話ををして和みませんか。」というスタンスで親交を広げ、参加者は三十名を超えました。（勿論、お酒が飲めない人も参加できます。ソフトドリンクも用意しております。）回を重ねるうちに会の代表である小川氏他参加者の意向もあり、先ずは手始めに明年二月一日に「寒中みそぎ・鎮魂作法鍊成会」を実施することになりました。我が国の伝統である神道の中核を成す「きよめはらい」と「鎮魂」の作法を経験することにより心身共に清々しくなる体験の場を提供したいと思います。尚、富山県内の神社境内で一般を対象として神道行法を実施するのは初めての試みとなります。精進潔斎のあとは、銭湯にて暖まり、直会（なおりい）としてみんなで鍋をつつつきながら御神酒を酌み交わしたいと思います。我も、と思われる方は年齢・性別は問いません。奮ってご参加をお待ちいたしております。